

第5期 令和3(2021)年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第4回 第2部会 議事概要

日 時 2021年10月22日（金）14:00～16:00

場 所 しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員 稲葉委員、長谷部委員、岡田委員、センブ委員、金子委員、金（朋）委員、陳委員、
原田委員、山口委員、守重委員、國谷委員、内田委員 12名

欠席委員 申委員、奥田委員、鈴木委員、伊藤委員 4名

1 開会

2 議事

（1）前回までの進捗

事務局から報告があった。

（2）外国人の地域参加・交流とは何か

外国人委員から、生活している中で日本人とどのような交流があったか、どのような地域参加・交流をしたいかなどの意見を聞き、その後審議を行った。

・お母さんたちが日本のお弁当を作れなくて困っていたので、日本人に日本のお弁当の作り方を教えてもらう会を開いた。母国の料理を一緒に作り、食べながら交流した。

・浴衣の着方を教えてもらったり、夏にはスイカ、お正月にはお餅を一緒に食べたりして交流した。

・子供が生まれたとき、初めての経験で分からないことに加えて、日本の制度は母国と全く違うために大変だった。

・地域の中には様々なコミュニティがあり、1人でいくつもの所に参加すると体力的に厳しいと思う。

・コミュニティに入れる人と入れない人が出てくる。自分と同じ特徴を持った人たち（子育て世帯、学生など）がいるコミュニティであれば、参加しやすいと感じるのでは。

・地域コミュニティに参加するためには、負担感をあまり感じられないものの方が、日本の若者も外国人も参加しやすい。

・外国人側が学ぶだけでなく、日本人側も外国人コミュニティのところへ赴き、どのような文化で、どのような人たちが集まっているのかを学ぶ、平等の交流が必要だと思う。

・自分の世代だと会社にいる時間が長く、地域コミュニティの会合に出席するのは難しい。

・地域の清掃活動は、それを通じて知り合ったり、交流するきっかけにすると良いと思う。

・イベントの集客は、地域にチラシをまいたり、町会の掲示板に貼っても日本人も外国人も思うように集まらない。個人的なつながりで声掛けすることで参加すると思う。

・清掃や防災のイベントで繋がっても、その場で終わってしまう人たちが大半である。どのように仕向けたら知り合いになるのかを考える必要がある。

・場所を用意して、日本人側がお迎えするという意識ではなく、外国人にも主催者側に入ってもらい役割を担ってもらうのが良い。

・全世代が関わるのは難しいと思うので、必要な場面でライフステージごとに関わることを積み重ねていけば良いと思う。

・イベントがあっても自分の役割を終えたあとに関わる機会がなければ距離は縮まらない。

・お母さんたちが子供を連れて集まり、お茶とお菓子を提供する「子育てサロン」を開催したことがあるが、外国人のお母さんは来なかった。理由は、目的なく行かないし、お茶を飲まないからだ。

・子育てサロンへの参加は、外国人側からすると自分の日本語が足りない、何か間違えたらいけない、話をしてもいいのかという壁がある。

・外国人が集まっている場所へ町会のイベントなどで日本人側が行くというのも大切である。

・地域は、つくるものであり、仕掛けることがそもそも必要なものである。ターゲットを全員にするのは難しいので、一番多い層から少しずつ計画していくと良い。

・町内会は1つのイベントだけでなく、いくつかターゲットに合わせて作り、その反応を見ながら少しずつ広げていくしかないのでは。短期間では難しいと思う。

・現代社会では、みんな時間が限られている。よほどボランティア精神があるか、町内会に参加するメリットがはっきりしていないと参加しないと思う。

・ミャンマー人はみんなボランティア精神が高い。

・学校の卒業生のうち外国人卒業生の多い国では母国で同窓会があるが、最近は現地で開催しても参加者が以前ほど集まらない。学校への帰属意識が薄れてきているのを感じる。

・民生委員で、学童の見守りをしているが、日本人だけでなく様々な国の子供たちがいる。彼らが成長して町会活動に参加するようになれば、日本人が外国人コミュニティと関わりを持つきっかけになると思う。

・交流の仕掛けを作ることは簡単だが、その仕掛けを作った後その場で終わりという経験を何度もしてきた。続けていくために関係性をきちんと作っていく必要性を感じる。

(3) 中間のまとめについて

事務局から、中間のまとめ骨子（案）について報告を受けた。その後、今後の審議について委員から意見が出された。

・今後のテーマとして、理想の地域とはどのようなものか深めていきたい。

・今後の会議では、地域参加・交流はニーズに合った場が必要であることを踏まえ、幾つか実践できるような具体例や実践事例を議論したい。

・交流という考え方ではなく、関係づくり、どうやって外国人と日本人が繋がっていくのかということを考える必要があると思う。

・イベントは一過性のものであり、そのときだけ集まっても関係づくりは難しい。子育てなど直接関わりをつくれるような場を幾つか作り、重ねていくということが大切だと思う。

(4) 次回の日程

事務局から次回会議の日程（2021年12月24日開催予定）について、説明を受けた。

3 閉会